

ふれあい

2026

9

No.474

牛久愛和総合病院 広報誌



新任のご挨拶

整形外科 田山 賢太郎

初めまして。2026年度より牛久愛和総合病院に入職いたしました、整形外科の田山賢太郎と申します。

出身は水戸市で初めての県南生活となり、新鮮な気持ちで毎日を迎えています。

専門分野はまだ決定していませんが、広い分野を勉強中です。当院に赴任してからは、主に骨折などの外傷治療に携わっております。

皆様は整形外科の手術と聞くとどういったものか。人い浮かべるでしょうか。人工関節や脊椎の手術など、痛みやしびれといった生活の妨げとなる症状を取り除く手術がどんどん増えてきております。

整形外科領域で最も多い手術は高齢者の大腿骨（太もも）の骨折に対する手術です。年を重ねて骨がもろ

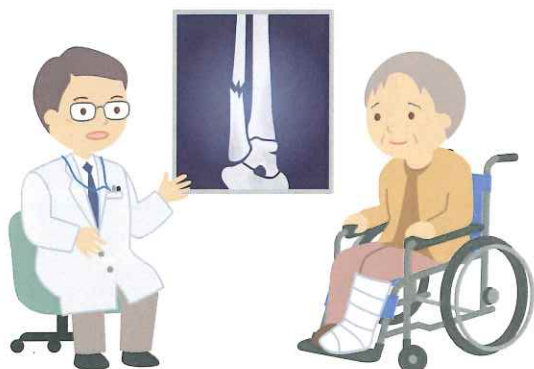
くなる（骨粗鬆症）と、つまずいて転んだ時に大腿骨の骨折を起こしやすくなります。この骨折は痛みも強く、歩けなくなってしまうため、早期手術が必要となります。実は肺炎などの内科的合併症のリスクも高く、治療に難渋することもあるかもしれません。手術後のリハビリテーションも長期に及び、自宅の環境調整や施設調整など、退院に向けての課題が多いです。当院では、整形外科のみならず、多くの診療科・メデイカルスタッフと協力しながら治療にあたっております。

手術をして元気に退院しても、再度転倒して反対側を骨折してしまうとまた入院、手術となってしまいます。そのような事態を避けるため、骨折治療をした後も通院をして頂き、骨粗鬆症の治療として効果の高い注射の治療を主におすす

しております。

注射での治療に抵抗がある方もいらっしゃるかもしれませんが、丁寧にやり方をお教えしますのでご安心ください。

牛久市の高齢化率は30%を超え、今後もこういった骨折は増えてくると予想されます。地域の皆様の怪我の治療を牛久市で完結させ、最終的には「骨折の少ない牛久市」を目指し、誠心誠意努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



卵黄を食べると吐いてしまう？ —卵黄FPIESについて

小児科 西野 誠

「卵黄を食べさせたら、数時間後に何度も吐いた」。このような症状を繰り返す赤ちゃんがいます。食物アレルギーという、食べてすぐにじんましんが出たり、咳き込んだりするイメージがあるかもしれませんが、近年、乳児期の卵黄摂取で特徴的な症状を起こす「食物蛋白誘発胃腸症（FPIES: Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome）」と診断されるお子さんが増加傾向にあり注目されています。

場合によっては脱水を起こすこともあるため、自己判断で何度も食べさせるのではなく、小児科を受診することをお勧めします。

卵黄によるFPIESでは、卵黄を食べてから数時間（多くは1〜4時間）たって、繰り返し嘔吐するのが特徴です。重症例では顔面が蒼白になり、活気が低下し、ぐったりすることもあります。一方で、じんましんや咳嗽などの典型的なアレルギー症状は通常みられません。

FPIESは、一般的な食物アレルギーとは異なり、「卵」という抗体が関与しないタイプの食物アレルギーです。そのため、血液検査でのアレルギー検査では診断できません。診断には、症状の経過や食事内容を詳しく確認することが重要です。必要に応じて、医療機関で食物経口負荷試験を行い、診断を確定します。卵黄FPIESと診断されても、成長とともに食べられるようになるお子さんは少なくありません。医師と相談しながら、適切な時期に少量から摂取を再開していきます。

卵黄は離乳食初期から取り入れられる食品ですが、卵黄を食べるたびに数時間後に嘔吐する場合には、卵黄FPIESの可能性があります。症状が強い

卵黄を食べた数時間後に繰り返し嘔吐する場合は、FPIESという病気があることを知っておくことが大切です。心配な症状がある場合は、ぜひ小児科にご相談ください。

春秋園だより

現在、春秋園ではネパール出身2名、ベトナム出身1名の介護スタッフが活躍しています。それぞれ日本での暮らしや驚いたことなどについて話を聞きました。

ネパール出身のJさんは二年前の冬に来日。来日前から日本語を学び、現在は仕事にも慣れてやりがいを感じながら働いています。休日は日本語の勉強や動画作成を楽しんでいます。日本で驚いたことは、牛や犬、猫が町中を歩いていること。将来は介護福祉士の資格取得を目指しています。

同じくネパール出身のAさんは二年前の秋に来日し、日本語学校卒業後に春秋園へ就職しました。日本語をさらに上達させ、日本で長く働き、家族を支えたいという夢を持っています。好きな日本食はラーメンで、東京へ出かけた際は電車の移動に苦労したそうです。将来は介護福祉士を目指しています。

ベトナム出身のNさんは、昨年の夏に来日し、日本語を学んだ後、春



秋園で働き始めました。日本の冬の寒さや、車の通行が左右逆、ゴミの分別など、日本ならではの生活に驚きながらも、仕事にやりがいを感じています。好きな日本食はラーメン。介護福祉士の資格取得と、日本語能力試験合格を目標に頑張っています。利用者様にも印象をお聞きしましたところ、「とても頑張ってくれていて、介助されていて困ることはないです。日本語も上達してきていると思います。」と声を頂きました。

住み慣れた祖国を離れ、日本で新しい生活を始めた三人。それぞれが夢や目標をもち、日々前向きに仕事へ取り組んでいます。春秋園でも、これからも安心して働き続けられるよう、スタッフ一同で温かく支えていきたいと思っています。

（春秋園スタッフ一同）

部署紹介

リハビリテーションセンター (作業療法士)

作業療法士 副科長 夏加 孝明

作業療法士は、病気やけが、加齢などによって、これまでの生活に困りごとが生じた方に寄り添い、「その人らしい暮らし」を取り戻すお手伝いをするリハビリテーションの専門職です。作業療法という「作業」とは、仕事だけを指す言葉ではありません。食事や着替え、入浴、料理、買い物、趣味、家族や友人との交流など、毎日の生活を形づくる大切な活動すべてが含まれます。

例えば、「自分で服を着られるようになりたい」「また料理をしたい」「趣味の園芸を続けたい」「安心して家に帰りたい」といった思いに対し、身体の動きや手の使い方、記憶・注意力などを確認しながら、一人ひとりに合った練習や環境づくりを考えます。必要に応じて、ご家族への介助方法の提案や、福祉用具・住まいの工夫についても一緒に検討します。

作業療法士は、できないことに目を向けるだけでなく、「できること」「大切にしたいこと」「これからやってみたいこと」を大切にします。皆さまが住み慣れた地域で、自分らしく安心して生活を続けられるよう、これからも支援してまいります。

Dr 趣味リレー

研修医 大串 翼

「キャッチャー 大城卓三 背番号24」

その直後、球場に響き渡る鋭い打球音。その一音で私の日常は鮮やかに色づく。私の人生は常にプロ野球の輝きと共にある。学生時代には年間50試合を現地で見届け、複数の野球場アルバイトにも心血を注いだ。部屋を埋め尽くす百枚超の応援タオルやユニフォームは、私の歩んだ軌跡そのものだ。

私の視線の先にはいつも大城卓三という漢がいる。走力を除く全能力に長けた読売巨人軍の扇の要で、日本代表として世界一まで上り詰めた。近年は寂しい成績が続いていたが、本記事の記載中に目の前で豪快なアーチを描いた。大城卓三という物語はまだ終わらない。

プロ野球の最大の魅力は応援にある。選手ごとに紡がれる応援歌、特に中日球団の美しい旋律や楽天球団の中毒性のある楽曲、また甲子園球場の魂が揺れるほどの熱狂には、言葉を越えた芸術性がある。応援界隈の深淵も覗いてみて欲しい。

最後まで読んで頂きありがとうございます。院内では気軽に声を掛けください！

入職者

8月1日付

■医局

研修医 奥田 元貴

①専門とその紹介

臨床研修医2年目です。現在、内科を中心に診療経験を積みながら、将来の専門分野について学んでいます。

②出身大学

秋田大学医学部医学科

③現在最も熱中しているもの(趣味) 読書

■栄養センター

管理栄養士 峯島 茜

患者様一人ひとりに寄り添い、安心できる栄養管理に努めてまいります。

■経理課

事務 黒川 仁美

安心して業務を任せていただけるよう、正確な事務手続きと誠実な対応を心がけて参ります。

■人事部

事務 田村 夏美

これまでの人事経験を活か

し、職員に寄り添いながら円滑な組織運営に貢献します。

8月16日付

■春秋園

■通所リハビリ

介護福祉士 鈴木 順子

一人ひとりに寄り添うケアを徹底し、笑顔と安心をお届けられるよう努めてまいります。



骨盤底筋体操

「いつかよりいまが未来を創る！」

骨盤底筋が加齢や出産をきっかけに骨盤底筋が弱くなることで、尿漏れ、頻尿、骨盤臓器脱（臓器下垂感）などの症状が現れることがあります。これらの症状に対して効果があるとされているのが、骨盤底筋の筋力トレーニング「骨盤底筋体操」です。最近では、症状が出る前や、症状が軽いうちから骨盤底筋体操を始めることで、重症化を予防できるとされているため、産前産後からの骨盤底筋体操も推奨されています。また、自宅で自主トレーニングができるため、1回習得してしまえば、ご自分のペースで、ながら時間を実施することが出来ます。

当院では、近隣では珍しく、女性理学療法士が1対1で運動指導を行う「骨盤底筋体操教室」を、通年で実施しております（自費診療）。

少しでも多くの方に骨盤底筋体操を知って頂くために今年度も3回、無料の講座を実施することになりました。6月24日に第1回目を開催し、14名の方がご参加くださいました。講座では骨盤底筋の働きや仕組み、骨盤底筋が弱くなることでみられる症状などについてご説明し、自宅で実施できる体操を体験して頂きました。



次回は2026年10月22日（木）、3回目は2027年2月19日（金）に1回目と同内容での実施を予定しております。この講座は参加無料・予約不要であり、男女問わずどなたでもご参加頂けます。頻尿や尿漏れ、骨盤臓器脱の症状がある方はもちろん、予防として学びたい方やご興味のある方は、ぜひお気軽にご参加ください。

編集だより

秋といえば食欲の秋。かぼちゃやさつまいも、梨、さんまなど、ビタミンやミネラルが豊富な旬の食材を積極的に摂って、冬に向けた体づくりを始めましょう。涼しくなってきたので、散歩やジョギングなどの運動もおすすめです。（E・N）

病院理念 我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様へ最善の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要 病床数 489床（一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床）

施設 敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

【専門外来】

循環器疾患専門外来、ペースメーカー専門外来、不整脈外来、肝疾患専門外来、糖尿病専門外来、甲状腺専門外来、血液専門外来、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）専門外来、リウマチ専門外来、関節専門外来（股・膝）、脊椎外来・足部外来、スポーツ外来、乳腺専門外来、小児神経外来・発達障害（自閉症・学習障害等）専門外来、小児心理外来、小児科免疫外来、小児科循環器外来、口腔機能外来、皮膚科レーザー外来、内視鏡科、心血管外科、そけいヘルニア外来、下肢静脈瘤外来、再建外来、女性泌尿器科外来、肥満症外来

臨床研修指定病院／地域医療支援病院
地域災害拠点病院／日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団 常仁会

救急 24時間



牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

《関連施設》

総合健診センター
健康増進施設 スポーツリラックス
人工透析センター
読影センター
地域リハ・ステーション
介護老人保健施設 春秋園
ひたち野ステーションクリニック
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久

Tel 029-873-4334

Tel 029-874-8791

Tel 029-870-3100

Tel 029-896-6200

Tel 029-817-5111

